

# KIDSセンター Cafe

with たねラボ



## 第5回 こどものまなざし

0歳から3歳くらいまでの子どもたちは、からだの成長の変化も大きく、それに合わせて見える世界も急激に変わっていきます。首がすわり、一人で座れるようになり、やがて立ち上がって歩けるようになります。その中で、視線の高さや範囲はどんどん広がり、今まで見えなかったものに気づく体験をたくさんしているはずです。

子どもたちの遊びを観察していると、その子の視線は、何に关心を持ち何を見ようとしているかを教えてくれます。車や電車を動かしながら、寝そべるようにそのおもちゃと同じ視線を楽しむ子もいます。小さな人形をたくさん並べて、上から全体を眺めて楽しむ子もいます。どの視点もとても大切で、そのもの（人）と同じ立場に立って感じたり考えたりすることや、のごとを客観的・多面的に理解しようとする姿勢の基礎になります。

大人から見ると、「何でこんな見方ばかりしているのだろう？」と不思議に感じることもありますが、子どもたちの成長にとってはとても大切なプロセスだと思いますので、ぜひあたたかいまなざしで見守ってあげてください。お母さんやお父さんも、子どもと同じ高さや角度で遊びに参加していただくと、「こんなふうに見えているのか、なるほど面白い！」という発見ができることがあると思いますので、ぜひトライしてみてください。

たねラボは、金城学院大学 加藤大樹研究室による、心理学の研究成果を地域にわかりやすく伝えていく取り組みです。